令和７年度　第１回　静岡県立浜松湖南高等学校　学校運営協議会議事録

１　日時　令和７年５月 14 日（水）

２　場所　静岡県立浜松湖南高等学校　会議室

３　委員（敬称略）

渥美和弘（浜松市中央区雄踏協働センター所長）
小杉大輔（静岡文化芸術大学教授）（欠席）
坂田雄章（元自治会副会長・元中学校長）
島野知厚（令和６年度ＰＴＡ会長）
杉山哲也（河合塾浜松校　校舎運営チームチーフ）（欠席）
松本雅美（ムンド デ アレグリア学校　理事長兼校長）
山下譲　（浜松国際交流協会事務局長）

＊事務局（学校職員）

神村佳代校長、佐藤敦副校長、山﨑一憲教頭（欠席）、河合宏明事務長
大村浩之教務主任、土屋尚子生徒指導主事、竹内慎司進路指導主事

４　次第

(1) 校長挨拶及び学校運営委員任命
(2) 自己紹介
(3) 会長及び副会長選出

会　長　島野知厚　委員
副会長　坂田雄章　委員

(4) 議事

ア 令和７年度学校経営計画書について

［学校長説明］　学校経営計画「目指す学校像」・令和７年度の取組
《「目指す学校像」の委員による承認手続き》　⇒　承認

イ コンプライアンスについて

［副校長説明］　不祥事根絶取組計画、教職員の生徒指導に係る共通ルール
《委員質問・意見》

・不祥事根絶に向けて多くの対策をされていることがわかる。
・学校は業務が多く、どこかで魔が差すこともある。ワークライフバランスをしっかりして、教職員が安定した心持で業務ができるとよい。

・職員の関係が良い学校は不祥事が起きにくいと思う。職員をよく知ることが不祥事を未然に防ぐことにつながるのではないか。
・スマホ・SNS の利用による不祥事が起きているが、ツールは使い方の問題で、恐れるときりがない。これまで起きた問題をまとめ上げる形で、職員向けの約束事を作るというやり方もある。
・不祥事は、起きた後の対応も大切である。

ウ　令和６年度本校の教育活動について
［生徒指導主事説明］　部活動報告
［進路指導主事説明］　進路状況
［副校長説明］　英国ヘンドン校研修
［副校長説明］　躍進湖南−新聞で見る浜松湖南高校の活動−

(5) 授業参観

(6) 意見交換

《委員質問・意見》
・生徒が楽しそうに授業を受けていた。
・校外の講座に自発的に参加した湖南高生を知っている。講座情報を自らキャッチして参加するのは自主性があることの表れと感じる。
・手をかけすぎるのは考えものである。
・出会い、体験で子供は変わる。湖南高校へ来てよかったという思いを持ってもらえるとよい。
・湖南高校は、国際感覚を養う第一歩となる学校である。
・湖南高校の良さを中学校の教員にもアピールできるよう工夫すると、より多くの生徒に選ばれる学校になるのではないか。
・JR 沿線の中学校に対して重点的に PR するとよいのではないか。
・入試の倍率が高くなっても敬遠されない魅力ある学校になれるとよい。

(7) 諸連絡